

◎ 列強の進出と東アジアの情勢

(1) 列強のアジア進出

① 欧米諸国の〔1〕 → 〔2〕進出

② 幕府の対応 - 異国船打払令 (1825)
→ 〔3〕戦争 (1840) … 英国と清国の戦争
→ 〔4〕 (1842)

※ オランダ国王の開国勧告 (1844) → 幕府拒絶
琉球にフランス船 (1844) ・イギリス船 (1845) 来航, 通商要求

③ アメリカ使節〔5〕, 浦賀へ来航 (1846)
→ 〔6〕 → 拒否
… アメリカの西部開発 (カリフォルニアに金鉱を発見=ゴールド・ラッシュ)
→ 〔7〕と〔8〕基地として日本の港が必要

◎ 開国

(1) ペリーの来航

① 〔1〕, 4隻の軍艦で浦賀へ来航 (1853年=嘉永6年)
・ アメリカ大統領フィルモアの国書を持参し, 武力を背景に開国要求
→ 幕府は一応受け取ったが, 返事は翌年するとし, 帰国させる。
・ 老中〔2〕は朝廷に報告し, 諸大名や幕臣に意見を聞いた。
幕府の独裁ゆらぐ → 〔3〕の契機

② 1853年, ロシアの使節〔4〕が長崎へ来航
→ 開国と国境の確定を要求

③ 〔1〕 = 神奈川沖に再来
ロシアの使節〔4〕再来

(2) 〔5〕 = 神奈川条約, 1854 (安政元) 年

① 内容

ア) 薪水・食糧の給与, 難破船・乗組員の救助
イ) 〔6〕を開港, 下田に領事駐在
ウ) 〔7〕をアメリカに一方向的にあたえる

② イギリス・ロシア・オランダの各国とも和親条約を結ぶ

※ 日露和親条約 … 〔8〕島以南を日本領, 得撫島以北をロシア領
〔9〕を両国人雑居とする国境協定を加える

③ 〔10〕 - 人材の登用, 前水戸藩主徳川斉昭の幕政参画
江戸湾に〔11〕築造
〔12〕 (長崎)
〔13〕 (江戸) の設置
反射炉の建設, 大砲の製造
← 〔14〕

◎ 通商条約の締結

(1) 〔1〕の来日
… アメリカ初代総領事として, 幕府に通商条約の締結をせまる
← アロー号事件の経過を説明
・ 老中首座の〔2〕は孝明天皇の勅許を得られず, 辞任

(2) 〔3〕の締結 (1858年=安政5年)

① 大老に就任した〔4〕は勅許を得ず, 通商条約に調印

② 内容

ア) 〔5〕・長崎・新潟・兵庫 (神戸) の開港と江戸・大坂の開市
イ) 通商は自由貿易とする
ウ) 開港場に〔6〕を設定
エ) 領事裁判権 = 〔7〕を容認 〔9〕
オ) 協定関税制 = 〔8〕の欠如

③ 英・露・蘭・仏とも同条約を結ぶ = 〔10〕

④ 条約の批准 - 外国奉行新見正興を遣米使節正使として派遣
〔11〕ら, 咸臨丸で随行 (1860)
↑ 日本人操縦による太平洋横断

* 幕府はなぜ鎖国をやめ, 開国に踏み切ったのだろうか。その理由をまとめなさい。